

国語

(国1～国13ページ)

※数学②の問題は、本冊子の左開きのページにあります。

注意

- 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- この問題用紙には、次の二科目の問題が収められています。
国語(国1～国13ページ)
数学②(数1～数11ページ)「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B」
- 二科目の中から一科目を選択し、解答は解答用紙にマークしなさい。
解答用紙は、二科目共通です。
解答用紙にはマーク式解答欄の番号が **1** ～ **75** までありますが、使用しない解答欄も含まれています。
- 解答用紙に受験番号・氏名・選択科目を記入しなさい。
受験番号と選択科目は、下記の「受験番号欄記入例」「選択科目欄記入例」に従って正確にマークしなさい。
- 試験時間は **六〇分** です。
- 試験開始後、問題用紙に不備(ページの不ぞろい・印刷不鮮明など)があったら申し出なさい。
- 問題の内容についての質問には、いっさい応じられません。
- 中途退出は認めません。試験終了後、この問題用紙は持ち帰りなさい。

受験番号欄記入例・選択科目欄記入例

アルファベットと数字の位置に注意してマークしなさい
(アルファベットのI・O・Qはありません)

受 験 番 号 欄				
H	5	7	0	9
A	0	0	●	0
B	1	1	1	1
C	2	2	2	2
D	3	3	3	3
E	4	4	4	4
F	●	5	5	5
G	6	6	6	6
H	7	●	7	7
I	8	8	8	8
J	9	9	9	●
K				
L				
M				
N				
O				
P				
Q				
R				
S				
T				
U				
V				
W				
X				

「国語」を選択した場合

選 択 科 目 欄	
●	国 語
○	数 学 ②

↑
解答する1科目に
必ずマークしなさい

マーク式解答欄記入上の注意

- 解答は、HBの黒鉛筆を使用して丁寧にマークしなさい。
《マーク例》
良い例 ●
悪い例 ○ ⊕ ⊙ ⊗ ○ ○
- 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで、きれいにマークを消し取りなさい。
- 所定の記入欄以外には、何も記入してはいけません。
- 解答用紙を汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

I 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

今となつては、通俗名曲に墮^Xしたともいわれかねないベートーヴェンのピアノ・ソナタ「月光」に、どれほどの愛好家がこころ動かされるのだろう。

ことはオーケストラ曲でも同じようだ。愛好家にとつては、いまさら「運命」や「田園」ではないのだろう。「第九」ですら「一万人の第九」などと、ことさらに大仰なタイトルをつけなければ世間が振り向いてくれなくなつてしまった。

かつてのように音楽のみに純粋に感動を覚えるひとびとはいるのだろうか。音楽に深く関わつていればいるほど、素直に楽曲それ自体に興味を覚えるのが難しい時代ではなからうか。リサイタルで「月光」が奏されても聞こえて来るのは演奏についての分析的な批評だ。音楽自体の素晴らしさを伝える声はなきに等しい。新録音がリリースされると「斬新な解釈」、「臨場感あふれる録音」等々、アばかりが耳に入る。その楽器から紡ぎ出される音にこころ震わされた、などというものなら、「素人か」と小ばかにさえされそうだ。

こうした現状は、わたしたちの耳が肥えてしまったからなのか。立派な演奏や録音に接しすぎて、並の解釈や音では満足できない身体（耳）になったようだ。

たしかに、日本人のみによつて初めて演奏された大正二三（一九二四）年の「第九」が、今日のようなレベルでの演奏だったか、という点に甚だ疑問ではある。ラヂオや蓄音機を通して聴こえてくる音楽は雑音にまみれていたことだろう。

しかし、だからこそ、音楽のまことに触れようと、ひとびとは己が感性を研ぎ澄ましたのではなかったか。そこに音楽がある、というだけでこころ打たれたのも、人生が変わるほどの衝撃を受けたのも、かれらのこころ

が新たな世界に開かれていたからにほかならないのではないか。だとすると、今を生きるわたしたちの感受性はいったいどうしたというのだろう。

おそらくその変化の根底にあるものは、音楽が商品となったゆえに違いない。わたしたちはいつの頃からか、音楽を消費することが当たり前の世界を生きるようになってしまった。いまや音楽に関するいっさいが市場にある。創ることにおいても、演奏することにおいても、聴くことにおいても、教えることにおいても、習うことにおいても、だ。そして、そこには市場のニーズなるものが存在する。ニーズというものは、既にそれが何であるか知られているところに生まれる。

ところが真の芸術は、それがひとびとの目の前に現れるまで、そのようなものがこの世に存在するとは想像すらされなかったがゆえに、芸術たりうる。したがって、I。だって、まだ誰もそれを知らないのだから。

ならば、近ごろの音楽界に感動が足りないのは、真の芸術たりうる新たな響きが生み出されていないからなのか。

そんなことはない。話は逆だ。2「それについては知っている」という消費者としての立ち位置が、わたしたち自身のこころ（耳）を曇らせているからだ。

「私は私が何を欲しているか、自分のことを知っている」という己に対する傲慢が、自身の感覚を鈍らせている。つまり自らニーズを生み出すことによつて、かえつてわたしたちは未知なる世界への扉を閉ざしている、といえはしまいか。

市場に溢^{あふ}れかえる音楽は、消費者としてのあるまいをわたしたちに求める。だが、いったんその立場を受け入れてしまうと「差し出された商品を自らの価値観で査定する」という消費の罠^{わな}から抜け出せなくなる。あらかじめ用意されたイで値踏みされる芸術（音楽）が、どうして誰も見

たこともない世界を開示できよう。

レッスンをだって同様だ。このどこかに「私は、これから私が何を習おうとしているか知っている」という思いはないだろうか。「私が何を学びたいと望んでいるかは、II」と自らへの驕りが生じてはいないだろうか。

レッスンを、市場に提供された「演奏スキルを身につけるためのサービス」と捉えるなら、それもアリだ。でも、そうであるかぎり感動的なレッスンもなければ、音楽を奏するうえでのブレークスルーを経験することも難しかろう。「今はできなくとも、いずれそれができるようになると知っていること」ができて、嬉しくはあろうが感動はしまい。なにより、既に知っていることができるようになることを、ブレークスルーとはいわない。「それができるようになって、初めてそれが何かを知った」とき、ひとは真のブレークスルーを果たす。その経験は音楽的感動をも、もたらすはずだ。

音楽（芸術）とひとの出会いが感動的であるのは、（思想家・内田樹氏の表現に倣うなら）それが新たな時間と空間を生成し、そんなものがあるとは想像すらしなかった存在がそこに立ち現れるからだ。いま目の前にあるものとは違う世界との通路を穿ち、架橋することこそが芸術の本質にあるものだ。

「知っている」という思いあがりに、芸術が感動の扉を開くことなどあるはずがない。

どうやら不足しているのは、音楽に対してへりくだる柔らかなところらしい。

わたしたちは自らに向かってもう少し謙虚に生きたほうがよいのかもしれない。再びこの世界に感動を取り戻すために……。

なにも「受け手のところが純であれば、ヘタな演奏でも感動は生まれる

はずだ」などとナイーブな論を展開したいわけではない。いうまでもなく、クラシック音楽において演奏家の役割は重要だ。彼らはいつも楽譜と格闘している。楽器あるいは声を自由に操り、思い通りの音を出せるようにと日々過酷な訓練も怠らない。楽譜の向こう側に隠された音楽の真実に少しでも近づくためだ。彼らにはそこから紡ぎ出される音に全責任を持つことが求められている。誰に求められているのか？ 音楽自身に、だ。

音楽を志す者なら一度は誰もが耳にすることはある。「作曲家の意図した音楽をいかに再現できるかこそが、演奏家の使命である」と。だがそれは必ずしも真実ではない。

こんなことをいうと多くの同僚から非難ごうごうであることを承知で書いてしまおう。バッハは自分の音楽の価値をホントには分かっていたはずだ。モーツァルトも自らの音符の意味を完全には理解できていなかったことだろう。ピアノの名手ベートーヴェンが弾く自作のソナタは決して理想的なものではなかったといっている。

じつは五線に落とし込まれた音符たちも、作曲者が音楽そのものと格闘した末にこの世界に姿を顕したものだ。それはこの地上では生まれたての音楽ともいえる。だから生みの親といえども、その音楽がわたしたちの世界でどのように成熟するのか、本来はどのような姿であるべきなのか、本当は分かっている。演奏家は、作曲家たちが地上に招くために格闘した音の痕跡（音符）をたどって、聴き手という仲間とともに「今まさに生成しようとする音楽」との交歓を試みている。もちろんそれが上手な演奏であるにこしたことはない。でも、書き手（作曲家）、読み手（奏者）、聴き手がスクラムを組んで音楽そのものに至ろうとするとき、それがいかなる演奏であれ、そこにかげがえのない響きが生まれる。それは音楽それ自身が促す共同作業の果実ともいえるものだ。ときに拙い演奏においてさえ、ひとが音楽にこころを揺さぶられる秘密がそこに隠されている。演奏の巧拙が音楽のすべてではないとはそういうことだ。

（大嶋義実『演奏家が語る音楽の哲学』による）

(注) ブレークスルー——行詰りを突破すること。

*問題作成上の都合により、本文の一部を省略してある。

問一 傍線部X・Y・Zについて、問題文中での意味として最も適切なものを、

次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

1 X「墮した」

- ① 落ちぶれた
- ② 古びてしまった
- ③ 成り上がった
- ④ 数えられるようになった

2 Y「大仰な」

- ① 大胆な
- ② 明快な
- ③ 幽遠な
- ④ 派手な

3 Z「ナイーブな」

- ① 皮相な
- ② 拙劣な
- ③ 軽薄な
- ④ 素朴な

問二 空欄ア・イに入る語句として最も適切なものを、次の各群の中から

それぞれ一つずつ選びなさい。

4 ア ① 釈明 ② 講釈

③ 非難 ④ 格言

5 イ ① 物差し ② 名札

③ 土俵 ④ 回答

問三 空欄Ⅰ・Ⅱに入るものとして最も適切なものを、次の各群の中から

それぞれ一つずつ選びなさい。

6 Ⅰ ① そもそもニーズの存在しない

② 真の芸術などそもそも存在しない

③ ただの芸術と真の芸術は区別できない

④ 市場にはニーズが存在し得ない

7 Ⅱ ① あなただけでなく、私も知り得ないことだ

② あなたが知る必要はない

③ 私にとって自明のことだ

④ 私には未知のことに属することだ

問四

傍線部1「素直に楽曲それ自体に感興を覚えるのが難しい時代」とあるが、それはどのような時代か。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

8

- ① 音楽以外にも感性を刺激するカルチャーが溢れかえり、芸術としての音楽がなんら特別視されることのない時代。
- ② 音楽を聴くことが特別のことではなくなったため、今さら音楽に感動することが恥ずかしく思われる時代。
- ③ 商品化された音楽が市場に溢れた結果、人々の感受性が鈍磨し、音楽作品を批評家のように分析し評価するという時代。
- ④ 感受性を全開にして音楽を楽しむことより、音楽を一つの商品として消費者の立場から評価を下すことを人々が強いられている時代。

問五

傍線部2「それについては知っている」という消費者としての立ち位置が、わたしたち自身のところ（耳）を曇らせている」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

9

- ① 本来、市場に溢れかえる音楽と真に新しい音楽とは異なるものであるのに、それを同一視することで、新しい音楽から聞こえてくるはずの新たな響きを聞き取ることができないこと。
- ② 自分が聴きたい音楽にしか関心を向けようとしないう閉鎖的な態度を保持しようとする余り、実際には耳に届いているはずの新しい音楽の響きでさえ、つまらない音楽として打ち捨ててしまっていること。
- ③ 自分が何者であり、何を欲しているかを知っているという、ある種の傲慢さが、自分はあらゆる音楽に通暁しているという慢心につながり、最新の音楽に対しても平気で侮るようなことを口にする事。
- ④ 自分の価値観で商品の価値を判断する癖が身についてしまっているために、新しい音楽を耳にしても、つねに自分の価値観でしかその音を判断できず、その新しさを感動をもつて受けとめることができないこと。

問六

傍線部3「だがそれは必ずしも真実ではない」とあるが、そのように言えるのはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

10

- ① 演奏家の使命は、作曲家が創作した作品を演奏することで、作曲家自身が考えもつかなかった新たな作品を生み出すことにあるから。
- ② 演奏家の使命は、作曲家の格闘の証である楽譜を作曲家の手から奪い返し、演奏家と聴き手との共同作品として蘇らせることにあるから。
- ③ 演奏家の使命は、作曲家が残した音符を奏でること、これまででない音楽を聴き手と共に創り上げていくことにあるから。
- ④ 演奏家の使命は、作曲家が天上の世界からこの地上に招き寄せた音楽を、今一度天上に捧げること、聴き手に感動をもたらしすることにあるから。

問七

傍線部4「演奏の巧拙が音楽のすべてではないとはそういうことだ」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

11

- ① いかなる演奏であろうとも、作曲家と演奏家、それに観客が一体となることで新たな時空を生成し、そこにかけがえない響きが生まれれば、それは人に感動的な音楽体験をもたらすということ。
- ② 音楽における演奏の巧拙などというものは大した問題ではなく、むしろ、音楽という共同制作の場においては、作曲家、演奏家、そして観客がそれぞれの役割を果たすことがなにより求められているということ。
- ③ たとえ拙い演奏であつても、演奏家は作曲家が生み出した音楽の本質を余すところなく奏でることさえできれば、そこにいる人は必ずやそこを激しく揺さぶられる体験をするに違いないということ。
- ④ 音楽にとって大事なものは、作曲家、演奏家、観客が三位一体となって新たな価値の創造に参加し、その結果、その作品がいつの時代においてもひとびとに変わらぬ感動をもたらすかどうかであるということ。

問八 問題文の内容と合致するものを、次の中から二つ選びなさい。

12

① 芸術に対する自分の価値観を大事にしつつ、自身の感受性を最大限に開放することで初めて芸術の本質に迫ることができるとする。

13

② 芸術の本質は、対象に対して謙虚に向き合い、柔軟な感受性でもって受けとめようとする者にこそ開示されるものである。

③ 真の芸術とは、これまで多くのひとびとに拒絶されていた作品のなかにこそ存在するものである。

④ 芸術との出会いがひとに感動をもたらすのは、あらゆる芸術が元々人間の想像力を超えた未知の領域へと開かれているからである。

⑤ 芸術家は、自己の作品の価値を十分に理解しえないのであり、その作品をより価値あるものへと育むのは後世の人々である。

⑥ 芸術とは、芸術家が享受者に提供する単なるサービスではなく、芸術家がある特定の時代を生きた証そのものである。

問九 二重傍線部A「大正二三（一九二四）年」以後に作家活動を始めた

人物として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

14

① 夏目漱石

② 芥川龍之介

③ 安部公房

④ 菊池寛

Ⅱ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

何かを前提としなければ、わたしたちは何も考えることはできない。しかも、何を前提としてよいのかわからないとすれば、わたしたちは徒に迷うだけで、何も自分から考えることはできないであろう。わたしたちはそこで懷疑に捉えられ、何ごとをも信じないのを自己の信条とするようになるかも知れない。デカルトは何らかの確実な一点を見出し、まずいつさいを疑ってかかることにした。その懷疑は積極的で、不断に緊張した注意を必要とするものであった。しかし未決定の、迷える懷疑主義は、むしろ消極的で、何らの努力もなく、何かを空しく待つ、精神的無気力の別名に過ぎない場合がすくぶる多い。しかもひとは何も考えずにいることはできない。懷疑家の無気力な精神状態は、その受動的なことにおいて、思想的奴隷のそれと全く同じである。したがって、その精神的空白へは、その時その時のものが、何でも侵入して来ることになる。彼らもまた、何ごとにも信じないと言いながら、何でも言い、何でも行なう結果になる。彼らが奴隷と多少異なるのは、その言動が多少憂鬱であり、絶望的であるくらいなものかも知れない。不決定は自由に似ている。それは消極的自由と言われるかも知れない。しかし、そのような消極的自由の空白は、絶えず他の独断が外部からこれを埋めるであろう。わたしたちは、このような奴隷状態から、わたしたち自身を解放しなければならない。それには、わたしたちは、ニヒリズムをコクフクしなければならぬ。

何ものにも固執しないということは、何ごとをも信じないということではない。地上には、**A** はないかも知れない。しかしそのことは、真理そのものを否定する理由にはならない。幾何学の教えるような三角形を、わたしたちは地上に見出し得ないであろう。しかしそのゆえにわたしたちは、幾何学的真理を否定しなければならぬであろうか。地上には、絶

対的な美はないかも知れない。しかもわたしたちは、この歌声、この微笑、この色、この形の美を疑うことはできない。人間の努力は、少しでも真実を明らかにし、少しでも善美なるものを見出し、つくり出すことにおいて、はじめて意味を得、万人のよろこびとなるであろう。思想の自由といえども、真実を明らかにし、わたしたちのよい生活を準備するためでなければ、何の意味もないであろう。わたしたちは善と真実とを信じなければならぬ。ただ用心するところは、行きあたりばったり、何でも絶対の真理、絶対の善と信じないことである。しかし一度目標が真と善とに定められれば、わたしたちは徒に迷い、空しく不決定の懷疑にとどまることはできないであろう。わたしたちは前進し、何でも試みなければならない。そうすれば、実験的真理を少しずつ獲得することができるようであろう。いつまでも前提の吟味ばかりにティタイして、あれこれと気むずかしく、難点を言い立て、少しも思想的冒険を試みようとしなないのは、真実への愛の不足を物語るものであつて、そのような精神的不毛、精神的無気力の言い訳に、学問の良心を云々することは許されないのである。とにかく前進することである。前提を忘れないければ、何を前提として出発しても、思想の自由が失われることはない。そして前提を忘れない、その帰結を追うことが、またすなわち論理的に考えるということなのであつて、自由に考えるということとは、論理的思惟にほかならないのである。

かくてわたしたちは、自由に考えるということが、何の拘束もなしに、気楽にものを考えるというようなことではないのを見るわけである。ひとつの前提がおかれる時、そこから一定の帰結が出て来ることは必然である。自由に考えることが、前提を忘れずにその帰結をはっきり考えることだとすれば、自由の思惟は、つねに論理的必然に従って考えることだと言わなければならない。すなわち自由の思惟は、必然的思惟なのである。これは一個の矛盾だとも感じられるであろう。しかしながら自由の思惟においては、自由と必然とは、その在り場を異にしているのである。わたしたちは

前提を選ぶことにおいて自由であるが、ひとたび前提を決定すれば、そこから帰結を引き出すことにおいては、もはや自由ではない。帰結は必然なのである。²わたしたちの自由は立法の自由であり、自律性の自由なのである。わたしたちの思想は、自分自身が約束したことだけに束縛されるのであって、外部のいかなる圧迫にも屈することはないのである。すなわち思想の自由は、他律からの自由であって、いつさいの規律を無視するの自由ではないのである。ちょうどまたわたしたちも、他から法律を押しつけられることなく、わたしたちの法律は、わたしたち自身でつくることにおいて、まさに自由であるけれども、自分たちの定めた法律に対して、これに従うの義務がある限り、決して無拘束ではないようなものである。たとい個人としては、その法律の制定に反対であったとしても、わたしたちはこれを批判し、国民にその撤廃を説得するの自由はもつにしても、これを破る自由は有しないのである。公約を無視し、自分の都合だけで、良心の束縛も知らずに行動するのは、暴君や独裁者の自由であって、公正なる自由民のことではないであろう。自由の思惟とは、論理法則以外に、何の束縛も知らない思惟という意味なのである。

しかしわたしたちは、時に論理の必然性さえ外部的圧迫と感ずることがないでもない。論理の法則は、思惟の自律法則であって、わたしたちはそれを批判するの自由さえもっているものであって、それが外部的な束縛となるはずはないのである。しかしそれにもかかわらず、わたしたちが束縛を感ずるのは、なぜであろうか。多くの場合、それはわたしたちが私心^xを抱いているからなのである。論理がわたしたちの虫のよい言い分を通してくれないからなのである。そんな場合、わたしたちは、わたしたちの言い分を通す^y途が、ほかに何かないかと求める。すると、わたしたちの要求に迎合^yするかのように、具体的、現実的な論理というものが唱えられて、見るのを見るであろう。形式論理は現実^yに適合しないから、もつと現実^yに適合した論理が、つくられなければならないというのである。これは思惟

の自律を廃して、現実の名において、外部から思惟へ、何かを強制しようとする試みなのである。しかもその現実とは、人々がまた「B」と呼ばうとするところのものであって、わたしたちがそのなかに生きている社会的変動の一つ一つであり、またその変動のうちに依然として、わたしたちが持ち続けている旧い^u観念やシェウカンの^cそれぞれなのである。それらのいつさいは流転のうちにあるのであって、もしわたしたちが、それらを流転するものとして捉えずに、これを永遠不動のもののごとく取り扱おうとすれば、わたしたちはたちまち思惟の困難を経験しなければならないであろう。しかし利害や偏見や感情が、わたしたちに執着を教える。そしてそれらを絶対化するの論理を要求する。幾多の歴史哲学が、それぞれのゴ^dウ哲学として登場するのも、このような要求に應ずるためなのである。いわゆる形式論理はたちまち廃棄されなければならないであろう。しかし論理から解放されることによって、わたしたちは何の自由を得るであろうか。わたしたちは偏見や政治的勢力に^eホウシするために、論理をも犠牲にする、思想的奴隷たるに過ぎない。しかし今日の現実^eに、あまりによく適合し過ぎる現実的論理は、まさにそのゆえに、明日の現実には適合しえないであろう。これに反して、いわゆる形式論理は、無内容のゆえに、よくいつさいの、そしてあらゆる場合の論理となりうるのである。

ひとは論理によつて考えるのであって、論理のなから何かを考えだすのではない。また他方、ひとは現実のなから自由に前提となるものを取り出すことはできるが、³現実³にそつて推理すべきではないであろう。かくのごとき現実追従は、奴隷的思惟にはかならない。

(田中美知太郎『生きることの意味』による)

(注) デカルト——一七世紀のフランスの哲学者。

*問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問一 傍線部 a～e を漢字表記に改めた場合、それと同じ漢字を傍線部で
用いるものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

15 a 「コクフク」

- ① フクスイ盆に返らず。
- ② 書類をフクセイする。
- ③ ケガからカイフクする。
- ④ モフクで葬式に出る。

16 b 「テイタイ」

- ① リヨウテイで食事する。
- ② 景気がテイメイする。
- ③ 争いをチョウテイする。
- ④ 物資がフツテイする。

17 c 「シュウカン」

- ① 季節がジュンカンする。
- ② カンハツをいれず答える。
- ③ 事情をカンアンする。
- ④ カンヨウ句を学ぶ。

18 d 「ゴヨウ」

- ① ゴラン下さい。
- ② ゴキを強める。
- ③ ゴサを無視する。
- ④ ゴカクに戦う。

19 e 「ホウシ」

- ① 相手にホウフクする。
- ② 供物をホウノウウする。
- ③ ホウケン社会を研究する。
- ④ 先人の作品をモホウする。

問二 空欄 A・B に入る言葉として最も適切なものを、次の各群の中から
それぞれ一つずつ選びなさい。

20 A ① 思想的自由

- ② 積極的自由
- ③ 絶対的真理
- ④ 消極的真理

21 B ① 形式的現実

- ② 歴史的現実
- ③ 客観的真理
- ④ 内部的真理

問三 二重傍線部 X・Y について、問題文中での意味として最も適切なも
のを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

22 X 「私心」

- ① 自分の利益を図ろうとする考え
- ② 自分の感情を抑制しようとする考え
- ③ 自分の頭だけで導き出した考え
- ④ 自分の都合を度外視した考え

23 Y 「迎合」

- ① ぴつたり当てはまること
- ② 調子を合わせること
- ③ 甘んじて受け入れること
- ④ 長い間待っていること

問四 傍線部1「このような奴隷状態」とはどのような「状態」か。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

24

- ① 自分は自由だと思い込んでいるために、他者の影響を受けているということに気づけていない状態。
- ② 何も信じられないがゆえに、その時その時で自分の考えを一貫性なく変えている状態。
- ③ 確固とした信条を手に入れられるまでの間、ひとまず他者の信条に従っているという状態。
- ④ 確かなものは何もないのだと考えるがゆえに、場当たりの他者の考えに流されている状態。

問五 傍線部2「わたしたちの自由は立法の自由であり、自律性の自由なのである」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

25

- ① 思想の自由とは、考えるための前提を選ぶ自由であり、かつそこから帰結の引き出し方を選ぶ自由であるということ。
- ② たとえ自分たち自身でつくった法律であっても、一度つくったからにはそれに必ず従わなければならないということ。
- ③ 自由に考えるとは、考えるための前提を自分自身で選び、外部から束縛されず論理的に考えることであるということ。
- ④ 自由の思惟といえども、前提を自由に選び出したり、帰結を引き出す時に論理を無視したりはできないということ。

問六 傍線部3「現実にとつて推理すべきではない」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

26

- ① 現実にとつて考えることは、思惟を現実という外部によって束縛し、その自律性を廃することを意味するから。
- ② 現実にとつて考えることは、現実のなかから自由に取り出した前提に束縛されてしまうことを意味するから。
- ③ 現実にとつて考えることは、偏見や利害や感情に左右されずに、現実的に妥当な結論を引き出すことを意味するから。
- ④ 現実にとつて考えることは、あらゆる場合に当てはまるような都合のよい結論を引き出すことを意味するから。

問七 問題文の内容と合致するものを、次の中から二つ選びなさい。

27

28

- ① 自由の思惟を実現するためには、偏見や政治的勢力に常に抵抗して、思惟の自由と自律を維持していかなければならない。
- ② 不決定の懷疑から抜け出し、思想的冒険を試みるためには、流転のうちにある現実をいったん忘れなければならない。
- ③ 自由にものを考えるためには、自分が何らかの前提に立っていることを忘れず、形式論理に従って思考する必要がある。
- ④ わたしたちはニヒリズムの未決定を乗り越え、他者の言動に追隨することなく、自分だけの真理を見つけ出す必要がある。
- ⑤ 幾何学に出てくるような三角形は、現実には存在しないが、わたしたちの心がその形を美しいと感じること自体は疑い得ない。
- ⑥ ある法律に反対であるならば、それを破るのではなく、その法律の撤廃を求めて国民を説得するよう努めるべきである。

Ⅲ

次の文章は『源氏物語』の一節である。源氏は息子の夕霧を幼いうちから高い身分にするのではなく、しばらくは大学寮に入れて学問をさせようとした。以下に続くのは、源氏がその教育方針を夕霧の祖母の大宮に語る場面である。これを読み、後の問いに答えなさい。

御対面ありて、この事聞こえたまふに、「ただいま、かうあながちにしも、まだきにおひつかすまじうはべれど、思ふやうはべりて、大学の道にしばし習はさむの本意はべるにより、いま二三年をいたづらの年に思ひなして、おのづからおほやけにも仕うまつりぬべきほどにならば、いま人となりはべりなむ。みづからは、九重のうちに生ひいではべりて、よのなかのありさまも知りはべらず、夜昼御前にさぶらひて、わづかになむはかなき書なども習ひはべりし。ただ、かしこき御手より伝へはべりしに、何ごとにも広き心を知らぬほどは、文の才をまねぶにも、琴笛の調べにも、音たへずおよばぬ所の多くなむはべりける。はかなき親にかしこき子のまさる例は、いと難きことになむはべれば、まして次々伝はりつつ、隔たりゆかむほどの行く先、いとうしろめたなきによりなむ、思ひたまへおきてはべる。高き家の子として、官^{つかさ}・爵^{かう}心^{かう}にかなひ、世の中盛りにおごりならひぬれば、学問などに身を苦しめむことは、いと遠くなむおほゆべかめる。戯れ遊びを好みて、心のままなる官爵にのほりぬれば、時に従ふ世人の、下には鼻まじろきをしつつ、追^つ・従^しし、気色とりつつ従ふほどは、おのづから人とおぼえてやむごとなきやうなれど、時移り、さるべき人に立ちおくれて、世衰ふる末には、人に軽め侮らるるに、かかりどころなきことになむはべる。なほ、才をもととしてこそ、大和魂の世に用ゐらる方も強うはべらめ。さし当たりては心もとなきやうにはべれども、つひの世の重しとなるべき心おきてをならひなば、はべらずなりなむ後もうしろやすかるべきによりなむ。ただ今はかばかしからずながらも、かくてはぐくみはべらば、せまりたる大学の衆とて、笑ひ侮る人もよもはべらじと思ふた

まふる」など聞こえ知らせたまへば、うち嘆きたまひて、「げにかくも思し寄るべかりけることを、この大將なども、あまりひき違へたる御事なり、と傾けはべるめるを、この幼心地にもいと口惜しく、大將、左衛門督の子どもなどを、我よりは下臈と思ひおとしたりしに、皆各々加階しのほりつつ、およすげあへるに、浅葱をいと辛しと思はれたるに、心苦しくはべるなり」と聞こえたまへば、うち笑ひたまひて、「いとおよすげても恨みはべるなりな。いとはかなしや、この人のほどよ」とて、いとうつくしと思したり。

(注) 1 この事——夕霧の身分について祖母大宮が述べた不満。

2 大学——大学寮。官吏養成のための教育機関。十三、十六歳で入学する。

3 せまりたる——行きづまって困る。貧しいこと。

4 この大將——夕霧の伯父の大納言兼右大將。かつて頭中將と呼ばれた。

5 およすげ——「およすけ」とも。「およすく」は成長すること。

6 浅葱——薄い藍色。夕霧が六位の正装として着ることになる上着の色。

問一 傍線部X、Y、Zの意味として最も適当なものを、次の各群の中から一つ選びなさい。

29

X「いたづらの」

- ① 偶然の
- ② 悪ふざけな
- ③ 無駄な
- ④ みだらな

30

Y「九重」

- ① 皇居
- ② 多くの部屋
- ③ 九日間
- ④ 都の九条通り

31

Z「うつくし」

- ① あでやかだ
- ② はずかしい
- ③ かわいい
- ④ うまくまとまった

問二 傍線部1「隔たりゆかむほどの行く先」とは、ここではどういうことを意味しているか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

32

- ① 源氏の子孫まで代々伝わっていくこと。
- ② 子が親より身分が高くなっていくこと。
- ③ 親子が長年離れて暮らしてしまうこと。
- ④ 夕霧が他の貴族の子弟と疎遠になること。

問三 傍線部a、b、c、dの「たまへ・たまふる」の中で、源氏に対する敬意を表しているのはどれか。最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

33

- ① 思ひたまへおきて
- ② 思ふたまふる
- ③ 聞こえ知らせたまへば
- ④ 聞こえたまへば

問四 傍線部2「さるべき人」とは、ここではどういう人をさすか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

34

- ① 立派な一人前の社会人。
- ② 後見人となるような親兄弟。
- ③ 学問を教えてくれる教養人。
- ④ 世間の一般大衆。

問五 傍線部3「心もとなき」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

35

- ① 大学寮で学ぶことは高貴な身分の者には無用なことだから。
- ② 大学寮の学問は漢学がかなり難しく落第しそうだから。
- ③ 大学寮の学問より音楽や和歌に時間を集中させたいから。
- ④ 大学寮では、優秀な大将の子弟たちがライバルとなるから。

問八 源氏物語より早く成立した物語として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

38

- ① 栄花物語
- ② 浜松中納言物語
- ③ 狭衣物語
- ④ 大和物語

問六 傍線部4「な」(連語の一部)と意味・用法が同じものを、次の中から一つ選びなさい。

36

- ① 駿河の国にあるなる山。
- ② 月の都の人なり。
- ③ 笛を吹きすまして過ぎぬなり。
- ④ 月出でにけりな。

問七 源氏は自分の少年時代をどう反省したから、息子夕霧を大学寮に入れようとしたのか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

37

- ① 大学寮で学ぶことは貴族社会での栄達とは無関係だと割り切っていたから。
- ② 畏れ多い父帝からの教えに頼ってしまい、自ら学ぼうとしなかったから。
- ③ 宮中の深奥で育って世間知らずであり、学問も不徹底で未熟だったから。
- ④ 幼時から詩文や琴笛の音楽を学ぶのに学問は関係ないと思っていたから。

国語の問題はここまでです。

フリガナ	
氏 名	

国語・数学②

解答用紙

2024-N1

受 験 番 号 欄			選 択 科 目 欄	
			○ 国 語	○ 数 学 ②

↑
解答する1科目に
必ずマークしなさい

(A)	①	①	①	①
(B)	①	①	①	①
(C)	②	②	②	②
(D)	③	③	③	③
(E)	④	④	④	④
(F)	⑤	⑤	⑤	⑤
(G)	⑥	⑥	⑥	⑥
(H)	⑦	⑦	⑦	⑦
(I)	⑧	⑧	⑧	⑧
(K)	⑨	⑨	⑨	⑨
(L)				
(M)				
(N)				
(P)				
(R)				
(S)				
(T)				
(U)				
(V)				
(W)				
(X)				

番号	解 答 欄										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	—
1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
2	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
3	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
4	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
5	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
6	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
7	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
8	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
9	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
10	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
11	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
12	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
13	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
14	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
15	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
16	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
17	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
18	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
19	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
20	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
21	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
22	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
23	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
24	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
25	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—

番号	解 答 欄										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	—
26	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
27	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
28	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
29	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
30	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
31	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
32	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
33	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
34	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
35	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
36	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
37	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
38	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
39	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
40	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
41	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
42	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
43	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
44	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
45	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
46	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
47	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
48	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
49	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
50	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—

番号	解 答 欄										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	—
51	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
52	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
53	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
54	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
55	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
56	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
57	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
58	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
59	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
60	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
61	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
62	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
63	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
64	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
65	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
66	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
67	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
68	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
69	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
70	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
71	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
72	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
73	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
74	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—
75	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	—